

UW-TU:AOS Workshop (AOS-Fall 2017)に参加しました(2017/11/15-17)

テーマ：国際連携

場所：ワシントン大学（シアトル）

University of Washington-Tohoku University: Academic Open Space (UW-TU:AOS)の活動の一環として、11月15-17日の3日間にわたりワシントン大学（米国・シアトル）においてワークショップが開催され、東北大学災害科学国際研究所（IRIDeS）から、地域・都市再生研究部門 地域安全工学研究分野の寺田賢二郎教授、森口周二准教授、災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野の越村俊一教授、マス・エリック准教授、その他博士課程（日本学術振興会・特別研究員）の学生4名（牧野嶋文泰、佐藤兼太、橘一光、野村怜佳）が参加しました。

ワシントン大学のAOSは、2017年4月に大学間協定と合わせて開設したものであり、本学としては5番目となる海外代表事務所です。このAOSは、ワシントン大学と東北大学との共同研究や学生交流を促進し、米国における本学のゲートウェイとして様々な分野の研究者や企業を交えたワークショップ等を開催することにより、新たな交流・連携のマッチングの場として、国際的共同研究体制と産学連携の推進を図る目的で設置されました。今回のワークショップはその具体的な活動として実施されたものです。ワークショップでは、ポスター発表と口頭発表が実施され、特に工学を中心としてそれぞれの大学の研究成果が報告されるとともに、国際連携促進に向けて共同研究や国際共著論文の可能性について議論が展開されました。

また、本ワークショップの中で、山田洋一郎在シアトル総領事よりスピーチをいただき、この取り組みの重要性が強調されました。さらに、本ワークショップ後に総領事館公邸において実施されたレセプションでは、東北大学とワシントン大学からの参加者の他、Japan Business Association of Seattle(シアトル日本商工会)の桂田健会長なども参加され、今後の関係強化に向けて親睦を深めました。



口頭発表発表の様子



ポスター発表の様子

文責：森口周二・寺田賢二郎（地域・都市再生研究部門）

（次頁へつづく）

<災害科学国際研究所からの参加者の発表内容>

Kenjiro Terada

Advanced failure simulations and multiscale strength evaluation method

Shunichi Koshimura

Real-time tsunami inundation and damage forecasting

Erick Mas

Agent based models for tsunami evacuation and disaster response simulations

Shuji Moriguchi

Probabilistic approach for disaster-risk evaluation: extensive use of rock fall

Fumiyasu Makinoshima

Tsunami evacuation planning by HPC enhanced agent-based simulation

Kenta Sato

The lattice Boltzmann modeling for efficient three-dimensional free surface simulation of tsunami

Ikkoh Tachibana

Two-scale characterization of seepage flow with micro-scale direct numerical simulation

Reika Nomura

Multiscale evaluation of disaster mitigation effect of coastal forest